

受贈図書文献

1991年12月～1992年1月

単行本

- 林 智、西村忠行、西川栄一、本谷 勲『サステイナブル・ディベロップメント—成長・競争から環境・共存へ—』（法律文化社、91年11月）
- 木下安子、在宅ケア研究会編著『ホームヘルパーは在宅福祉の要』（萌文社、ささら書房発売、89年10月）
- 東京の福祉研究会・東京自治問題研究所編著『図説 東京の福祉実態（1991年版）』（萌文社、ささら書房発売、91年4月）

定期刊行物

- 『生活協同組合消費者住宅センターだより』第18号（生活協同組合消費者住宅センター、92年1月）
- 『協同（月刊）』91年12月、92年1月号（兵庫県農業協同組合中央会）
- 『首都圏』第10号（首都圏労働金庫労働組合協議会、92年1月）
- 『障害者のゆたかな未来をめざして（月刊）』No.117（愛知県・ゆたか福祉会、91年11月）
- 『母親しんぶん（月刊）』第403、404号（日本母親大会連絡会、91年12月、92年1月）
- 『廃棄物列島（月刊）』第40号（廃棄物を考える市民の会、91年12月）

文献・資料

- 内山哲朗「労働組合自主経営企業の現地点—大分県の事例を中心に—」（『工学院大学研究論叢』第29号、91年、抜刷）
- 菊間 満研究代表「中小建設業者の協同化と地

域資源立地型住生活に関する研究」（平成2年度科学研究費補助金研究成果報告書・一般研究C、91年3月）

- 藤本 卓「列島に異質社会を想起する—地球時代の『日本史、によせて—』（『ひと』92年2月号、抜刷）

- 中・高年雇用・福祉事業団（労働者協同組合）全国連合会、シーアンドシー編集発行「WORKER'S COOP —労働者協同組合への招待—」（92年1月）

- 中小企業家同友会全国協議会景気・産業構造動向調査研究会編集発行「同友会景況調査報告（DOR）No. 9」（92年1月）

- 社会教育推進全国協議会編集発行「生涯学習のネットワークと計画化」（91年8月）

- 同上「『生涯学習の振興のための施策の推進体制等の整備に関する法律』制定以降の生涯学習関連政策の動向」（91年8月）

- 東京都労働経済局労政部労働組合課編集発行「都市型ユニオンと共済制度」（91年3月）

- 板橋・生活と自治研究所編集発行「'90調査いたばし—区民生活調査報告書—」（90年6月）

- 集会実行委員会編集発行「考えてみよう長野県での協同を第2回集会報告集」（91年12月）

- 京都自治労連現業評議会・清掃委員会編集発行「ゴミダス指数93—ゴミ・リサイクル現場からの報告—」「同資料編」（91年11月）

*新たな他団体、研究機関との資料・文献交換

- 全国商工団体連合会より
月刊民商（月刊）

- 中小商工業研究所より
中小商工業研究（季刊）

活動ファイル

1991年12月～1992年1月

1991年12月

2日 同実行委員会主催「民衆のメディア国際交

流'91」開催（東京・渋谷、11月30日前夜祭）。
4日 協同総研主催、シンポジウム「協同組合セクターはオルタナティブか」、関東の報告

- 者の打ち合せ会〈協同総研、13時半〉。
- 6日 第5回「福祉・医療と協同」研究会、第1回「海外協同組合」研究会の合同研究会、報告：田中夏子、菅野正純〈東京・事業団本部、18時半〉。
- 7日 同実行委員会主催「第7回子育て・文化協同全国交流研究集会」、基調提案：佐藤一子「鶴岡から埼玉へ」、記念講演：大田堯「地球環境と子どもの人権」〈埼玉・浦和市、～8日まで〉。
- 14日 協同総研主催、基礎経済科学研究所・大月書店後援「シンポジウム協同組合セクターはオルタナティブかー『自立と協同の経済システム』をめぐる一」開催、70名参加〈京都市、13時半〉。
- 16日 『仕事の発見』第20号発行。
- 18日 首都圏労働金庫労働組合協議会と交流懇談〈協同総研、10時〉。
- 20日 『仕事の発見』第20号発送。
- 21日 第6回「廃棄物問題」研究会〈16時〉。同研究会の忘年会〈東京・銀座、18時〉。
- 25日 事業団とICA日本事務局訪問、92年労働者協同組合国際シンポジウムに関して懇談〈東京・全国農協中央会〉。『協同の発見』第4号発行、発送。
- 28日 国鉄労働組合筑豊支部と労働者協同組合への事業化に関して懇談〈東京・足立・バラマウント製靴、14時〉。
仕事納め。
- 西部事業所「地域ケア研究所」訪問〈東京・日野市〉。
- 13日 事業団モンドラゴン協同組合への調査隊派遣、事前学習会〈東京・事業団本部、14時、日程1月19日～27日〉。
- 14日 第1回「協同組合地域産業基盤」研究会、報告：安藤政武〈協同総研、18時〉。
「いま協同を問う'92集会」関西準備会〈京都市・京都生協会館、18時〉。
- 16日 自治体問題研究所、竹下登志成氏来所、研究所の相互協力に関して懇談〈協同総研、10時〉。
- 17日 二宮厚美氏、大阪よどがわ市民生協と「いま協同を問う'92集会」に関して懇談〈大阪市、18時〉。
- 18日 第7回常任理事会〈東京・明治大学、13時〉。第5回基本研究会、報告：石見尚〈同上、15時〉。
- 19日 東芝アンボックス、新工場開き〈横浜市、13時〉。
- 21日 第2回「海外協同組合」研究会、報告：松田博〈明治大学、17時半〉。
- 23日 広島・協同の懇談会開催〈広島市、18時〉。
- 24日 第6回「福祉・医療と協同」研究会、報告：松本迪子〈柳原地域家事援助者〉〈東京・柳原病院、18時半〉。
- 25日 第7回「廃棄物問題」研究会〈10時〉。第1回「労働者協同組合法制」研究会、報告：菅野正純〈協同総研、13時〉。
- 31日 第1回「いま協同を問う'92集会」関西実行委員会〈京都生協会館、18時〉。
自交総連大分地方連合会、高野修副委員長、児玉圭史書記長来所、懇談〈協同総研〉。

1992年1月

- 6日 仕事始め。
- 8日 福祉・医療研究部会、センター事業団埼玉

〈編集部後記〉

本号は1992年1月、2月の合併号としました。3月から毎月中旬にお手もとに届くよう編集に全力を注ぎます。

また、編集部では会員の皆様の原稿をお待ちし

ています。「会員のひろば」にはもちろん、各地の運動や集会・催しの報告や情報、「研究ノート」のような小論文も歓迎しています。字数は1頁で1500字、2頁で3300字が目安ですが、ちょっとしたコラム記事もお待ちしています（K.H）。

ブックス・レビュー

シオドーラ・クローバー 著
イ シ (岩波書店)

今年、1992年はコロンブスがアメリカ大陸を「発見」してから500年にあたる。「発見」した側のスペインではバルセロナ・オリンピックとからめ、盛大なイベントを計画したが、「発見」された側の中南米諸国から激しい抗議を受け、イベント名を変更した、と言う。

アメリカ先住民に対する迫害は初めスペイン人によって行なわれ、次いでアングロサクソン系白人によって土地を追われ、奪われ、果ては大量の虐殺が実行されたのであった。私は本書で初めて知ったのだが、殺した人間の頭皮を剥ぐ癖はアメリカ先住民でなく、白人の方であったようである。

本書の主人公、「イシ」はたった一人残されたヤヒ族という先住民で、1911年、疲労と飢えから白人居住区に降りて来たところを「発見」されたのである。白人の中にも少数ではあるが先住民に「理解」を示すものがいた。著者の夫であるアルフレッド・クローバー、カリフォルニア大学の人類学教授である。この教授によって「イシ」は土地の私的所有という概念をもたなかった先住民の社会と、「文明社会」という異質の二つの世界を体験することになる。本書は二つの世界を生きたアメリカ先住民「イシ」の生活史である。もっとも「イシ」は「文明社会」のもたらした病気、結核によって、「文明社会」での生活は4年程になってしまったのだが……。

副題の「北米最後の野生インディアン」という表現には抵抗を感じる。モルガンの例を引くまでもなく、より適切な表現が可能だと考えるからである。

私にとっては、日本の先住民アイヌなどとの関わりで、決して他人事でないものと思った。

(外谷富二男)*岩波同時代ライブラリー、367頁、定価1,200円、91年9月刊

猿谷 要 著
物語 アメリカの歴史 (中央公論社)

進駐軍/ジャズ/映画/マフィア/人種差別/大統領暗殺/ベトナム戦争/アポロの月面着陸/ウォータゲート事件/債務国への転落/湾岸戦争

思いつくままにアメリカのイメージを自分史の年代順に並べてみた。私にとってアメリカの印象は陰湿でダークな面と、陽気で(あ)かるい面、そして誠実で真摯な面とが錯綜している。

湾岸戦争の「勝利」に狂喜する人々がいるかと思えば、同じ時期に映画『真実の瞬間』を制作する人々もいる。良くも悪くも「個人主義が確立」している社会なのだ、と思う。そして、それは建国事情もあって、ヨーロッパのそれとはまた異なっている。

「ヨーロッパでは名門は価値があるが……アメリカでは、あの人は何が出来るのか、と聞くのである」(ベンジャミン・フランクリン)。こうしたアメリカの良き伝統も、個人、企業、地域社会、国家を通じて「利害」という問題を前にした時、どのような展開をしたのであろうか。建国以来今日までレイシズム(人種主義)や貧困の問題が解決されずにいるし、最近急増しているホームレスのことを考えると経済大国のあまりにもアンバランスな現実に驚いてしまう。

確立した個人主義も、全体とのバランス、つまりは「協同」の思想・視点と結びつかなければ社会と個人の健全な発展はあり得ないのではないかと思う。前号に掲載された都筑氏の論考を読むと、今、アメリカでも「協同」の運動が着実な地歩を築きつつあるようであるから、近い将来一味違ったアメリカの一面を見せてくれるのであろう。ともあれ、個人主義が未確立で個と私の区分もあいまいな日本の社会にあって「個の確立と協同」というのが私自身の今後のテーマである。(外谷富二男)*新書、292頁、定価740円、91年10月刊